

神戸市実施のESCO事業の実績

作成年月日：2022年6月1日

件名	須磨海浜水族園 省エネルギー化対策事業	こうべ市民福祉交流センター ESCO事業	神戸市役所本庁舎 ESCO事業	しあわせの村ESCO事業	シーパル須磨ESCO事業	公園灯LED化ESCO事業	東灘区役所他3区役所 ESCO事業	こうべ市民福祉交流センター ESCO事業(再)
(施設概要) 構造・規模 面積	本館・ラッコ館・イルカ館 14,600㎡	RC造地下2階、地上10階 15,000㎡	1号館～4号館 100,000㎡	総合センター 温泉健康センター 16,000㎡	RC造地下1階、地上11階 11,739㎡	1,599公園、10,434灯	東灘、灘、長田、垂水区役所 64,377㎡	RC造地下2階、地上10階 15,000㎡
ESCO事業の種類	自己資金型	自己資金型	自己資金型	自己資金型	民間資金活用品	民間資金活用品	民間資金活用品	民間資金活用品
契約期間 (エネルギーサービス期間)	H16.4～H22.3(6年間)	H17.4～H24.3(7年間)	H18.4～H28.3(10年間)	H18.4～H30.3(12年間)	H29.4～R9.3(10年間)	R01.7～R11.6(10年)	R03.4～R15.3(12年)	R03.10～R18.9(15年)
光熱水費削減実績額(最終年度 または最新年度の実績)	10,439千円	17,084千円	49,670千円	24,721千円	31,115千円	118,417千円	39,421千円	4,421千円(半期)
削減実績内訳 ※事業最終年度もしくは最新年度	電気使用量▲1,002,979kWh ガス使用量▲17,193m3 原油換算▲274.7kl CO2換算▲412.8t	電気使用量▲831,475kWh ガス使用量+32,513m3 水道使用量▲4,099m3 原油換算▲173.5kl CO2換算▲250.6t	電気使用量▲2,988,625kWh ガス使用量▲20,013m3 水道使用量▲16,129m3 原油換算▲782kl CO2換算▲1,264t	電気使用量▲1,142,756kWh ガス使用量▲80,268m3 原油換算▲385.1kl CO2換算▲946t	電気使用量▲1,015,278kWh ガス使用量+14,342m3 水道使用量▲5,297m3 原油換算▲244.5kl CO2換算▲498.1t	電気使用量▲6,884,446kWh 原油換算▲1770.9kl CO2換算▲2,878t	電気使用量▲278,441kWh ガス使用量▲176,200m3 水道使用量▲9,261m3 原油換算▲274.7kl CO2換算▲519.9t	(半期) 電気使用量▲88,959kWh ガス使用量+2,954m3 水道使用量▲2,954m3 原油換算▲22.9kl CO2換算▲29.7t
省エネルギー方策概要	①飼育水槽循環ポンプインバータ制御導入 ②空調冷却水ポンプインバータ制御導入 ③飼育水槽循環水量最適運転制御導入 ④空調最適運転制御導入	①天然ガスコーゼネレーション導入 ②ガス吸収式冷水発生機更新 ③ファン、ポンプ関係インバータ制御導入 ④照明高効率化、昼光制御導入 ⑤地下駐車場ファン発停制御	①空調制御装置の更新 ②ガス吸収式冷水発生機更新 ③照明高効率化 ④ファン、ポンプ関係インバータ制御導入 ⑤外気負荷削減制御	①BEMSの導入 ③照明高効率化 ④ファン、ポンプ関係インバータ制御導入 ⑤空調・換気設備制御方法の変更	①熱源の高効率化更新 ②照明器具・誘導灯のLED化更新 ③冷蔵庫系統冷却水ポンプの適正化更新 ④空調機変風量制御の導入 ⑤熱源機械室ファンの燃焼換気制御導入 ⑥中央監視システムの更新	①公園灯のLED化更新	①照明器具のLED化更新 ②熱源の高効率化更新 ③既設個別空調高効率化更新 ④既設空調和機ファンインバータ化 ⑤BEMSシステムの導入 ⑥節水器具の導入	①照明器具のLED化更新 ②対象の個別空調を最新式高効率エアコンへ更新 ③節水器具の導入
備考	省エネ改修と補助金活用によるBEMS更新を目的とした事業契約電力の引き下しによる更なる光熱水費の削減を実現(▲4,000千円) ESCOサービス期間終了	旧ガス吸収式は中央区役所でリース…別契約 ESCOサービス期間終了	ESCOサービス期間終了	ESCOサービス期間終了	須磨海浜水族園・海浜公園再整備事業の推進に伴い、令和3年3月末で事業終了。	公園灯台帳管理システム及び公園灯の不点灯や破損等に対応する外部のコールセンター機能も付加してサービス開始。	省エネルギー化と維持管理コストの低減を図ると共に、老朽化に伴う更新費の負担が課題となっていた設備の一括リニューアルを実現。	過去にESCO事業を導入した建物の機器を更新することで、さらなる省エネルギー化と維持管理コストの低減を図るとともに、室内環境を改善。